



北海道自然観察協議会

自然観察

No. 90
2009
3月

会のマークをクリックするとホームページが開きます。

目次

・ 総会議案書案(概要)	2008年度事業報告	-----	2
・	2008年度会計中間報告	-----	4
・	2009年度事業計画(案)	-----	5
・	2009年度予算案(暫定)	-----	6
・ 北海道自然観察協議会会則		-----	7
・ 2009年 総会・講演会・懇親会のお知らせ		-----	8
・ 会計からのお願い		-----	9
・ 2009年度自然観察会参加アンケートのお願い		-----	9
・ フィールドニュース 苫小牧市、登別市、上富良野町		-----	10
・ 参加者の声		-----	11
・ ウォッチングレポート		-----	12
・ 2008年度地方研修Ⅱ報告		-----	14
・ 参加者の声 埼玉県所沢高校2年生		-----	15
・ 事務局だより・理事会だより		-----	16
・ 緊急連絡先他		-----	16



2008年度事業報告

1. 観察会の実施状況

<一般観察会について>

2008年度の観察会は、滝野の集いを除き、56回の開催が予定され、2回の中止を除き現在(2/25)まで52回が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の2回を除く50回について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ687人

参加指導員数 延べ204人

一般参加者の年代別集計に関しては、未記載が37名。例年同様50代、60代が年代記載者650名中、443名と約68%をしめています。

最終集計は4月の総会及び会報91号に掲載します。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

<滝野の自然に親しむ集い(第19回)について>

場所：滝野自然学園とその周辺

実施日：7月26日(土)～27日(日)

参加料：3,700円

一般参加者16名(子供7名・大人9名、6家族)

指導員11名 合計27名

今年度は、夏休みに入って直後の日程だったせいか、参加人数が昨年のおよそ3分の1と少なく子供同士の交流の点からも物足りなかったが、その分指導員の配置が密になり、全体に目の届く観察会になった。

自然観察ハイキングでは、予定のコースが工事のため使用できず、滝野スズラン公園に変更した。移動にはバスの増便を出してもらい、参加者の自家用車を利用しなくて済んだのはよかった。

2. 指導員研修について

<全道研修会>

テーマ：海産動植物や海岸地形・地質を題材にした自然観察会の実施に向けて

実施日：8月23日(土)13:30～24日(日)16:00

場所：小樽市忍路海岸、桃内海岸

会場：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 忍路臨海実験所

講師：中多章文氏(道立中央水産試験場 企画情報室 企画課長) 横山武彦氏(当会副会長)

参加人数：14名

海産動植物や海岸地形・地質に関する研修を深め、教材化を検討することができた。(詳細は会報89号のp.6)

<地方研修会>

(1)イバラトミヨなどの雑魚の生態を通して水環境を考える

場所：札幌市 西岡公園とその周辺

実施日：5月11日(日)

講師 桑原禎知氏(水中写真家・酪農大非常勤講師)

参加人数：9名

昔北海道の湿地に数多く生息した雑魚の様々な生態が現在でも見られる貴重な生息地で、雑魚の生態を観察しながら水環境を考えるとという内容でした。

(詳細は会報87号のp10)

(2)モニタリングサイト1000里地調査コアサイトから学ぶ

場所：栗山町 ハサンベツ

実施日：6月1日(日)

講師：栗山町自然観察指導員および栗山町いきもの里づくり推進協議会の方々

協力：いきもの里づくり推進協議会

離農によって荒れた里山を、行政と環境保全の団体と地元の住民が一体となって、再生する取り組みを行ってきました。その具体的な内容を、現地を見ながら研修しました。(詳細は会報90号のp)

(3)虫こぶのふしぎな世界を知ろう

場所：旭川市嵐山公園、嵐山ビジターセンター

実施日：8月6日(土)

講師：南常雄氏(嵐山ビジターセンター運営委員)

参加人数：8名

旭川で企画した研修会。虫こぶの興味深い世界を学んだ。

3. 会報発行について

会報87号(6/15) 会報88号(9/15)

会報89号(11/15) 会報90号('08/3/15)

予定通り発行できました。

4. 組織の状況

2月末現在で会員数が約380名です。

5. 理事会・部会・事務局関係

総会 2008年4月12日(土) 13:00～14:20

札幌エルプラザ 環境研修室

講演会 4月12日(土) 14:30～16:00

札幌エルプラザ 環境研修室

演題：虫の目で見る北海道

講師：堀 繁久氏(北海道開拓記念館学芸員)

理事会・各部会

理事会 (4/12)、6/4、8/5、10/7、
'09/1/27、'09/2/25
事務局会 '09/2/23
研修部会
観察部会
編集部会 5/20、6/5、6/12、8/19、9/2、9/9、10/21、
11/4、11/11、'08/2/24、'09/3/3、'09/3/10

事務局動向

北海道道民会議総会出席 5/13
北海道高山植物盗掘防止キャンペーン登山参加
7/12

忘年会 11月29日 北海道食市場丸海屋パセオ店
救急救命講習会 2009年2月1日
札幌市かでの2.7 940研修室
講師：(財)札幌市防災協会、日本赤十字社北海道支部

参加：7名

北海道自然観察協議会のホームページ
観察会予定、観察会報告等随時更新。
<http://www.noc-hokkaido.org/>

観察会の広報

(財)日本自然保護協会「自然保護」
(財)北海道環境財団、北海道環境サポートセンター
自然ウォッチングセンター「北海道ウォッチングガイド」、
北海道新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、
オントナ、地元新聞。

6. 指導員講習会について

2008年(財)日本自然保護協会 自然観察指導員講習会(酪農学園大学、2008年7月11日～13日)
北海道自然観察協議会への入会者 12名。

7. 他機関との連帯、交流

講師派遣

- ・日本自然保護協会・酪農学園大学共催「自然観察指導員講習会」協力、ミニ観察会講師 7名、7月13日。
- ・厚別中央地区社会福祉協議会 厚別中央地区福祉のまち推進センター、森の散策会「森へいこうよ」、講師派遣 6名、9月30日。
- ・所沢高校野幌森林公園の自然観察ボランティアガイド「所沢高校生と野幌の森を歩こう」、参加29名、9月26日。

修学旅行で北海道を訪れた埼玉県立所沢高等学校の2年生7クラスの生徒達を対象に、会員29名の協力を得て、野幌森林公園の5つのコースで実施。

現地研修として「自然ふれあい交流館」での講義と観察コースの下見巡検、5/24、9/13。

共催

- ・「カタクリの森」観察会 北見市端野町歴史民俗資料館・たんのカタクリと森の会共催 5/10～5/12
- ・「カタクリの森」観察会 たんのカタクリと森の会共催 6/28
- ・「勇払ネイチャーウォーク」観察会 日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ共催 7/13

8. その他

- ・八木名誉会長 お別れ会(札幌後楽園ホテル) 会長出席 9/6
会から甲電とアレンジメントフラワーを送りました。

寄贈

- ・「2008年北海道修学旅行報告集」
埼玉県立所沢高等学校2学年

【備品・分野別ガイド】

観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

- ・実体顕微鏡(ニコンアポルニ) 2台 ・タモ網 30本
保管先 根岸 徹(厚別区) Tel 011-891-0556
- ・大型旗(120×180) 1枚 ・小型旗(35×43) 3枚
- ・ポール(折りたたみ式) 3本
保管先 北道米雄(中央区) Tel 011-520-0700
- ・トリプルバグビューア 5台
保管先 山形誠一(中央区) Tel 011-551-5481

2008年度会計中間報告(2月18日現在)

収入の部

単位(円)

項 目	予算額	2月18日現在	増 減	摘 要
前年度繰越	801,255	801,255		
会 費	550,000	492,000		会員383名(新会員12名)
雑 収 入	1,000	50,852		利子 寄付金
観 察 会 参 加 料	90,000	64,037		観 察 会 保 険 料 ・ 資 料 代
合 計	1,442,255	1,408,144		

支出の部

単位(円)

項 目	予算額	2月18日現在	増 減	摘 要		
事 務 費	通 信 費	60,000	57,725	3月 末の 決算 額は 総会 と次 号会 報で 報告 しま す	切手代 はかき 郵送費	
	消 耗 品 費	30,000	14,964		用紙 インクトナー 印刷代	
	会 議 費	50,000	27,930		理事会 部会会場費	
	小 計	140,000	100,619			
	報 告 費	会 報 郵 送 費	130,000		95,010	会報3回発行(クロネメール便)
		印 刷 代	240,000		137,695	印刷所へ支払い
		ラ ベ ル 代	4,000		3,670	会報発送用ラベル
		封 筒 印 刷 代	30,000		26,000	角2封筒2000枚
		原 稿 謝 礼 代	5,000		0	
		通 信 費	15,000		9,870	編集部関係の通信費
消 耗 品 費		3,000	6,856	セロテープ プリンターインク コピー用紙		
小 計	427,000	279,101				
活 動 費	観 察 会 費	90,000	42,508	参加者保険 配布材料 通信費		
	総 会 開 催 費	50,000	25,170	会場使用料 講師謝礼		
	全 道 研 修 費	50,000	29,739	講師謝礼 会場使用料 資料代		
	地 方 研 修 費	50,000	31,240	講師謝礼 会場使用料 資料代		
	指 導 員 講 習 会 費	40,000	0			
	救 命 救 急 講 習 会	15,000	14,350	講師派遣費 会場使用料 講師駐車代		
	用 具 費	20,000	840	製図バッグ		
	雑 費	10,000	8,675	森と自然を守る会 盗難防止ネットワーク		
小 計	325,000	152,522				
30 周 年 積 立	200,000	200,000				
予 備 費	350,255	12,600		八木名誉会長葬儀の弔電 献花		
総 計	1,442,255	744,842				

2月18日現在収支残高

総収入 1,408,144円 - 総支出 744,842円 = 2月18日現在の残高 663,302円

30周年特別会計

2007年度繰越金	460,000円
2008年度積立金	200,000円
2008年度繰越金	660,000円

1. 観察会の開催について

- 1) 今年度の観察会実施計画は別表「2009年度自然観察会予定表(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。)

今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- 2) 各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び'09年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- 3) 観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号:2770-9-34461 (通常払込加入者負担の用紙)
加入者名:北海道自然観察協議会観察保険料
- 4) 観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然観察協議会のHPでお知らせします。

<http://www.noc-hokkaido.org/>
- 5) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。
- 6) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- 7) 団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。
- 8) 「第20回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出)で組織して実施予定です。
- 9) 観察部では備品の充実をはかって行きたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。
- 10) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送って下さい。ただし、一泊二日以上は該当しません。

< 観察会事故緊急連絡 >

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax011-707-5621

保険会社:アスカ・リスクマネジメント 本間氏

Tel 011-873-2655

死亡保険:500万円

入院保険金額:5,000円(180日以内)日額

通院保険金額:2,500円(90日以内)日額

2. 指導員研修について

< 全道研修会 >

日時:9月5日(土)~6日(日)または、

9月26日(土)~27日(日)(日程調整中)

場所:有珠地方

テーマ:火山とともに歩んできた自然と文化に触れよう

概要:2万年前とも1万5千年前からとも言われる有珠山の歴史。ここに生きる植物も動物も、火山の歴史とともに歩んできました。そして我々ヒトも有珠山との関わりで文化を織りなしてきました。

今回の研修では有珠山周辺・銀沼火口原などを巡り、特に2000年の噴火後の自然の回復や、縄文期から連綿と続いて来たヒトの歴史に触れる中で、悠久の地球の鼓動に思いを馳せたいと思います。

講師:安藤忍氏、福田茂夫氏ほか有珠山マイスターのみなさん。地質・火山学者(折衝中)

< 地方研修会 >

(1) 8月に予定 旭川地方(旭川市嵐山公園など)

テーマ:虫こぶの不思議な世界を知ろう・パート

概要:植物の組織に何らかの刺激を与え、多くは肥大した"コブ"のようになったものを"えい"と呼びます。"えい"の形成者は昆虫からウイルスまで多様ですが、そのうち特に昆虫によって作られるものを一般的に"虫えい=虫こぶ"と呼びます。今回は08年度の研修会に引き続きさらに研修を深めます。

講師:南 常雄氏(嵐山ビジターセンター運営委員)ほか(折衝中)

(2) 10月中を予定 旭川地区

テーマ:樹木の識別法を学ぼう

概要:北海道に自生する樹木がいったい何種類あるのか分かりませんが、チョットした図鑑を見ても300~500種類は載っていますから、移入種、変種などを含めるとかなりの数に上ると思われます。木の葉が落ちると一層識別しにくくなる冬を前に、よく目につく樹木を中心に、識別のポイントを楽しくみんなで学び合いたいと思います。

講師:未定

3. 会報発行について

会報91号 6月15日、会報92号 9月1日、

会報93号 11月15日、会報94号 '10年3月15日

事務局ほか各部などの原稿は、発行日の25日前までをお願いします。同封書類は事前打ち合わせと、発送作業の時の手伝いをお願いします。

4. その他

各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制作りをします。

< 理事会 > 隔月開催予定

< 忘年会 > 11月28日(土)

< 救急救命講習会 > 2010年2月の土曜日(日時未定)

例年と同じく、消防署(防災協会)と赤十字の2本立を予定しています。会報でご案内します。

< 総会・講演会 > 2010年4月10日(土)

< 自然観察指導員講習会について >

2009年北海道での開催予定はありません。

< パネル展等 >

- ・北海道立市民活動促進センター開催の市民活動パネル展へ出展予定(7月頃)。

< 個人情報保護法について >

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報、観察会活動の目的以外には利用いたしません。

また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。

会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。

< 観察会カードについて >

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」を配布中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

2009年度予算案(暫定)

収入の部

単位(円)

項目	2月18日現在	2009年度予算	増減	摘要
前年度繰越	801,255	537,000		
会費	492,000	438,000		会員365名
雑収入	50,852	600		利子
観察会参加料	64,037	70,000		観察会保険料 資料代
合計	1,408,144	1,045,600		

支出の部

単位(円)

項目	2月18日現在	2009年度予算	増減	摘要	
事務費	通信費	57,725	60,000	3月末の決算額は総会と次号会報で報告します	切手代 はかき 郵送費
	消耗品費	14,964	30,000		用紙 印刷代
	会議費	27,930	50,000		理事会 部会会場費
	小計	100,619	140,000		
会報費	会報郵送費	95,010	130,000		会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	137,695	230,000		印刷所へ支払い
	ラベル代	3,670	4,000		会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	26,000	30,000		封筒(角2、角3)
	原稿謝礼代	0	5,000		
	通信費	9,870	15,000		編集部関係の通信費
	消耗品費	6,856	10,000		セロテープ 用紙
	小計	279,101	424,000		
活動費	観察会費	42,508	70,000		参加者保険料 配布資料 通信費
	総会開催費	25,170	50,000		会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	29,739	50,000		講師謝礼 会場使用料
	地方研修費	31,240	50,000		講師謝礼 会場使用料
	指導員講習会費	0	0		掲示物作成
	救命救急講習会	14,350	16,000		講師派遣費 会場使用料
	用具費	840	20,000		
	雑費	8,675	12,000		森と自然を守る会 盗難防止ネットワーク
	小計	152,522	268,000		
30周年積立	200,000	30,000			
予備費	12,600	183,600			
総計	744,842	1,045,600			

収支残高

総収入 1,045,600円 - 総支出 1,045,600円 = 0円

30周年特別会計

2008年度繰越金	660,000円
2009年度積立金	30,000円
2010年度へ繰越	690,000円

北海道自然観察協議会会則

第 1 条 名 称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

第 2 条 目 的

自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第 3 条 事 業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1.自然観察会等の育成指導
- 2.会員の資質の向上を図るための研修会等の開催
- 3.会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための行事の開催
- 4.会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報の発行
- 5.その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力

第 4 条 会 員

この会の会員は、(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第 5 条 組 織

- 1.会の運営のため、事務局をおき、総務、広報、会計をおく。
- 2.会の事業遂行のため、観察部、研修部、編集部をおく。

第 6 条 役 員

- 1.この会に次の役員をおく。
 - (1) 理事 30名以内 会の運営、事業の執行等について審議し、議決に基づき実行する。
 - (2) 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
- 2.理事および監事は総会において選出する。
- 3.役員任期は2年とし、再任は妨げない。

第 7 条 役員職務

- 1.この会の役員職務は次の通りとする。
 - (1) 会長 1名 会を代表する。
 - (2) 副会長 若干名 会長を補佐し、会長に事故ある時は会長職務を代行する。
 - (3) 事務局長 1名 会の事務一般をまとめる。
 - (4) 部長 3名 各部に関する業務を行う。
 - (5) 総務 若干名 対外折衝等に関する業務を行う。
 - (6) 広報 若干名 事業に関する広報を行う。
 - (7) 会計 若干名 会計に関する業務を行う。
- 2.上記の役員は理事の互選により選出する。
- 3.上記職務の事務所はそれぞれの役員宅におく。

第 8 条 会 議

この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は出席者の中から選出する。

1. 総会 毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
2. 理事会 必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第 9 条 会 計

- 1.この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
- 2.この会の会費は、年額1,500円とする。ただし同一世帯に複数の会員がいるときは、2人目からは、年額1,000円とする。
- 3.会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

この会の会則は、1984年(昭和59年)8月26日から施行する。
一部改正 1991年8月11日、1994年5月21日、2000年4月15日
2006年4月15日、2007年4月14日

2009年 総会・講演会・懇親会のお知らせ

会員の皆様におかれましては、ご多忙の時節とは存じますが、ぜひご出席下さいませようご案内申し上げます。

日 時： 2009年4月11日（土）
場 所： かでる 2.7 730研修室 TEL 011-231-4111
札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル

《 総 会 》 受付：午後1時から 総会：午後1時30分～午後2時30分
議事概要： 1) 2008年度事業報告 2) 2008年度決算報告・監査報告 3) 2009年度事業計画案
4) 2009年度予算案 5) その他

《 講演会 》 受付 午後2時50分 講演会 午後3時～午後4時30分
演 題： 『森の守り神ニホンザリガニとそれを脅かす外来生物について
～ニホンザリガニの分布生態と特定外来種ウチダザリガニを中心に～』

講 師： 齋藤 和範 氏（ざりがに探偵団主宰・旭川大学地域研究所特別研究員他）

講演要旨： 日本固有種であり絶滅危惧種にも指定されているニホンザリガニ。豊かな森ときれいな水がなければ生息できない生物です。

最近、生息環境が次々と破壊され、生息地は減少の一途をたどっています。これに追い打ちをかけるように、外来種のウチダザリガニがあちこちに進出し、ニホンザリガニを絶滅に追いやっています。

今回、ニホンザリガニの生態や分布、それを脅かすウチダザリガニ、さらに北海道の外来種の現状について話します。

講師プロフィール：

- ・北海道大学地球環境科学研究科博士後期課程 単位取得修了
- ・水産庁北海道区水産研究所研究員、旭川大学非常勤講師・北海道立旭川高等看護学院非常勤講師などを経て、現在に至る。
- ・フリーランス・キュレーター（専門：博物学、水生生物(水生昆虫、ざりがに類、カエル類)、外来生物)
- ・旭川大学地域研究所 特別研究員、北海道教育大学旭川校 非常勤講師
- ・ざりがに探偵団主宰

《 懇親会 》 午後5時30分～午後7時30分

場 所： 福久樓（ふくろう）
札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館1階

Tel： 011-261-3201

HP： <http://www.spoonfull.jp/fukurou/>

会 費： 3,500円（飲み放題）
会費当日受けます。



人数確認のため、懇親会に出席出席希望の方は、

4月9日(水)までに事務局 武田治子までお知らせ下さい。

【連絡先】 FAX：011-707-5621 E-mail: haru_t@nyc.odn.ne.jp

観察部から 総会当日に2009年度観察会予定表をお渡します。

各地域で使用する枚数を 観察部 山形 誠一へご連絡下さい。

TEL 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

会計からのお願い

まだの方は会費の納入をお願いします

- ・会費は年度ごとに納めていただきます。4月から新年度になります。振込み用紙を同封します。
- ・2月末日の納入状況で請求しています。行き違いで入金の方はお許しください。
- ・同封の振込み用紙をご利用ください。

窓口通常払い込み手数料は120円、ATMでは80円です。
通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。
差し支えなければメールアドレスを記入願います。

★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。
届けが出されるまで、会費のお支払いをしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔
小川 裕美



2009年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い

自然に親しみ、自然を知り、自然を守る。私たちの観察会の意義を再認識しながらの1年でもあったのではないのでしょうか。そんな2008年度の観察会スケジュールも皆様のご活躍とご協力で、無事終わることができそうです。ありがとうございました。

さて2009年度の観察会は、2月末集計の段階で50回に近い(滝野の集いを除く)数を予定しています。観察会開催にあたっては、地域にとらわれず、多くの指導員の参加を募っています。

お手数ですが観察会への参加予定を、同封のアンケートはがきに記入のうえ、
3月31日までにご返送ください。

- ・アンケートはがきには研修会や救急講習会なども載せています。ご確認の上併せてご記入下さい。
- ・アンケートはあくまでも参加予定の確認ですので、当日の参加・不参加を拘束するものではありません。
- ・都合で参加できなくなった場合は、事前に必ず連絡先指導員に、ご一報ください。
- ・記入の際は、同封の「2009年度自然観察会の予定(指導員用)」を参照してください。
- ・アンケートの集計結果は、各観察会の連絡先指導員に直接お知らせします。また会報91号に同封します。

※なお観察会参加にあたっては、次の点に留意してください。

☆下見会は、観察会本番の準備というだけでなく、指導員同士の親睦を図り、また自己研鑽の場としての意味合いもあると思いますので、できるだけ参加されることをお勧めします。

☆観察会当日は不参加でも下見会に参加される方は、事前に連絡先指導員に連絡の上奮ってご参加ください。

◎あらたに2009年度中に観察会を開催予定の方は、観察部山形誠一までご連絡ください。

観 察 部

旅行して思うこと

苦小牧市 谷口 勇五郎

11月中旬、関東地方の2泊3日のバスツアーに参加しました。山地の紅葉や景色は良く、文化財も見応えのあるものでした。

参加者が20名だけと聞いたとき、バスにゆったり乗れると思いました。ところが来たのはマイクロバスです。運転手やガイドは申し分ありませんでしたが、座席が窮屈でした。

高速料金も大型より少ないし、燃料代も少なくてすみます。しかし、なにより二酸化炭素の排出を少なくするためには有効なことです。多少の我慢はしなければと思いましたが、高速道路のトイレの側に「アイドリンクストップは条例で決まっています、云々」の表示がありました。細やかでも、行政としても温暖化対策が始まっているのを感じました。

また、ホテルの食事毎の割り箸も、洗って何度も使える箸にすればと思いましたが、国内で使用される割り箸の9割以上が輸入に頼り、森林破壊の一因になっているといわれています。自分としてもマイ箸を常に持参する習慣にしなければと悔やまれました。

最近まで何のこだわりもなく自家用車を使っておりました。定年後に何度か田園風景の美しい美瑛(隣町に8年間住んでいたことがあります)に車で行ったこともあります。この1~2年、年のせいかも知れませんが、健康のためにも、多少不都合でも(私は年金暮らしで、しかも自由時間は沢山ある立場ですので)、近ければ歩き、自転車、少し遠くなればバス、電車を利用するようにし、いよいよ都合の悪いときに車を使うようにしました。

1人のとりくみは細やかで取るに足りないことですが、できるだけ地球温暖化を進める二酸化炭素の発生を少なくした生活をしなければと思うこの頃です。

自然保護活動に参加して

登別市 森田 平久

指導員の講習会を受けて平成18年から皆様の仲間に入りました。平成12年から湿原の保存活動に参加していました。系統的な勉強はしていませんので、自然保護について学ぶ機会を与えられて後の活動に大いに助けになりました。

登別市の街なかに湿原があります。広さは5ヘクタール

自然観察 90号 (10)

弱です。湿原特有の植物、直径5~10m程度のミズゴケのブルテが多数あります。昔は広大な面積の湿原が、土地造成により埋め立てられ消滅していきました。調査に入った時には小規模の湿原が残っていました。一部の方の地道な調査により貴重であることがわかり、大学の研究者も参加して詳細な調査が続けられました。

平成10年に本格的保存活動のための市民会議を立ち上げました(市当局の支援)。平成12年、自主組織(キウシト湿原の会)を立ち上げ現在に至っています。周囲は宅地・公共施設の建設により埋め立てられ、川とか湧き水等の水源を絶たれました。雨水依存のため、水位の変動が激しく乾燥化を止めることが難しい。対策として、堰止め、堰上げを行い水位の上昇をはかり、結果はかなり改善されたが、雨量に左右される要因は残りました。

会の活動として、水位、水質、水陸生物・植物の調査。絶滅危惧植物の再生。観察会の開催。勉強会。外来、有害種の駆除。蛍観賞会。パネル写真展。学校総合学習への協力。年間たくさんの行事があります。

恵まれていたのは、活動に対して行政の全面的な支援が得られること。現在整備計画が実行され、計画が実現されています。将来の人達に登別の原風景を残したいので更なる活動が必要です。

壊れた環境を元に戻すのは困難で、エネルギーが必要です。現状維持が精一杯。悩みは活動資金の確保。組織活動の維持。高齢化。課題は山積です。

夏耕冬読

上富良野町 高橋 英和

私は知人の紹介で2007年7月に、上富良野に念願の離農跡の家屋・宅地・山林を購入することができました。家は35坪、宅地・雑種地1,000坪、山は1町程度です。数年間放置されていた為、草は伸び放題、敷地内の木々の枝は地面に着いて苦しそうでした。残念なことに山林は30年生のカラマツが伐採され今はカラマツ稚樹を300本程、植林してあります。窪地になっていて南側にはヨーロッパトウヒ(鉄道防雪林)北側に我が家のカラマツ林があり、家の裏はミズナラの林です。

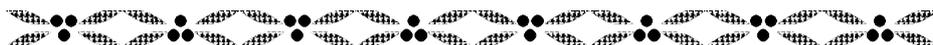
その他シラカンバ・ハンノキ・チョウセンヤマナラシ・エゾマツ・アカエゾマツ・アカマツ・クワ・ハルニレ・ホオノキなどがほんの少しあります。

防雪林にはフクジュソウが咲き、エゾエンゴサク、シロバナノエンレイソウ、ザゼンソウも申し訳程度に咲いている。この林では秋に、ツチスギタケ、シロシメジ、ムラサキシメジなどのきのこも楽しめる。ヘビ、ネズミ、キタキツネ、エゾリスもいる。

今年は雪がとけてから、骨組みしか無かったビニールハウスを再建し、シイタケ、ナメコを植菌し、野菜作り、スズメバチ捕獲のトラップづくり、庭の整備、雑木の枝打ち、山林の下草刈など、楽しく忙しい日々を過ごしております。

今はもう雪が積もりカケスやヒヨドリや、早朝エゾリスの採食や木から木へと飛び移る様を見ていると時のたつのも忘れてしまう。来年は井戸も掘ってみたい、小屋も建てたいなど夢は膨らむばかりです。ちっぽけな土地と山ですが、夫婦二人には充分過ぎます。

私は上富良野のボランティア組織「丸一山花と緑の会」(桜の木1000本植える目標)に加入し、山里作りに励んでおり、この丸一山での自然観察会を開催し、独り立ちしたいと決意をかためていくところです。



参加者の声

苫小牧市 ウトナイ湖周辺 ('08/10/26)

苫小牧市 丸谷 修一
ウトナイ湖に興味があり参加しました。草や木、鳥などいろいろと説明していただきました。

「ヒシの実」というんですね。幼少の頃、水辺で見たコウモリのような形をした不気味な物体。長年の謎が解けスッキリしました！

意味があったんですね。細くて背の低い木。地味で木材になるわけもないと思っていたもの。小鳥たちには欠かせない身の安全を守ってくれる大事なもの！

忘れていました。木や土ができるには多くの時間が必要なことを。枯れ葉が分解されて黒い腐葉土になるには100年！もかかるということ。

説明を受けながら自然を観察するといろいろ発見し、思い出し、考えが浮かんできて、大変勉強になりました。そして、自然にある物を知る事で世界が広がり、そして自然を通して自分達を見る、そんな機会を与えてくれた会でした。どうも有り難うございました。

小樽市 長橋なえぼ公園 ('08/11/ 1)

小樽市 仙波 誠二
自然観察会当日は見事に晴れました。自分と妻が参加したのは、今回が初めてです。指導員の方々は公園内を歩いている間、植物を触ったり、匂いをかいだりしながら食べられる実を教えてください、実際に食べてみたり、鳥の鳴き声を聞いたり、様々な動植物の特徴を、まさに五感を使って教えていただきました。いつもは何気なく散策していた場所がかなり異なって見えました。

昨年の観察会にクマゲラが現れた話を聞き、見てみたいと思いましたが、何と今年の観察会でも終わりちかくで、つかの間ですがクマゲラの飛ぶ姿、樹木にとまっている姿を見ることが出来ました。希少な生物が生息しているということは、その生物を支える様々な生物が生息していなければ成り立たない。生物の多様性について教えて頂きました。

またこの様な観察会がありましたら是非参加させて頂きたいです。ありがとうございました。

苫小牧市 北大研究林 ('09/ 1/18)

苫小牧市 板垣 晨
1月18日、この日は朝から晴れて雪は光り輝いて美しく、北大研究林の巨木達もたっぷりと湿り気を帯びて生き生きとしていた。

この種の集いのある朝はわくわく感が胸に満ちる。今回はどんな小鳥や動物たちと出会うことができるのか。春を待つ木々の芽のふくらみは...その期待感が寒い冬を楽しませてくれる。

会場にはすでに40数名の方々が集まっていた。私たちは3班に分かれて北大研究林内の小路や、流れる沢沿いに散策した。

カケスが見慣れない侵入者に警戒の声を発して飛び去ったり、ハシブトガラやシジュウカラが人恋しく道往く私達の頭や背に止まり歓迎の情を示してくれたり...

雪面の真新しいエゾシカの足跡、昼間顔を見せない小動物達の息づかいが聞こえてくるような足跡の数々.....

ガイドを務める方の説明に頷きながら、ゆったりと充実した冬のひとときでした。

ウォッチングレポート

江別市 野幌森林公園 '08年9月20日

天候 曇 掲載紙

<森に秋を探しに行こう>

親子観察会の呼掛けであったが、一般参加者は大人のみ。所沢高校生徒への自然観察支援の6日前であったため、支援のときにエゾユズリハコースを歩く指導員以外の指導員は桂コースを下見として歩いていただくことにした。

当日は、例年になく紅葉が遅かったが、秋の自然を特徴付ける様子や森の季節的、経年的な移ろいを確認しながら所沢高校生への支援の下見を兼ねて歩いた。

(横山 武彦 記)

苫小牧市 錦大沼公園 '08年10月5日

天候 曇 掲載紙 朝日、苫小牧民報

<キノコに学ぶ>

朝晩の冷え込みが厳しくなりましたが、秋晴れの中観察会がスタートしました。今年は菌類の出が少なく下見の時は心配していましたが、終わってみると約50種類位見られほっとしました。

参加者の中にはキノコ採りと思ってきた人もいましたが「今日は観察会なので見て勉強をしてください」と納得をしてもらいましたが、公園から出てきた人が籠にキノコを入れていたのには苦笑してしまいました。

錦小沼を一周しながら木とキノコの関係などを話しながら回りました。参加者の良く知ってるボリボリ(ナラタケ)、シイタケ、ハタケシメジなど、他にはコフキサルノコシカケ、ヒダハタケ、シロカノシタ。また冬虫夏草のハナサナギタケも見つかりました。

下見の時はキノコが少なく、今まで撮ってきた写真をラミネートして持って行き休憩の時にみてもらいました。

(豊澤 勝弘 記)

千歳市 林東公園 '08年10月12日

天候 晴 掲載紙 道新、千歳民報

<手話で楽しむ>

天候に恵まれ、紅葉深まる公園内を参加者とゆっくり散策しました。自然に関する手話単語の学習やネイチャーゲームビンゴを行いながら、楽しい時間はあっという間に過ぎました。

反省点は、ビンゴのテーマに合わせて内容をもう少し工夫すべきだったと言う点です。今後につなげていければと思っています。

(神能 俊行 記)

旭川市 嵐山公園 '08年10月18日

天候 曇 掲載紙

<季節による植物の変化を楽しもう>

開始前は雨、中止かなとも思ったが、開始時刻には雨も上がった。10月も半ばを過ぎ嵐山も美しい紅葉が見られる。

3月、5月、8月と続けてきた嵐山の観察会も今年度4回目になったが、それぞれの季節で見せる自然の変化が感じられた。

春から夏にかけて花を咲かせていた草花が、枯れたような葉や茎でひっそりとした姿ながら、来年に向けて命を繋いでいた。

その反面、フッキソウの白い実、鮮やかな朱色のマムシグサ、ハイイヌガヤの実、コマユミの実、そしてヤマブドウの実。ムキタケやムラサキシメジのキノコなど、「収穫の秋」でもある。

指導員の説明もあり、充実した観察会になったと思う。

(原部 剛 記)

中央区 円山公園 '08年10月18日

天候 晴 掲載紙

<木の実と紅葉>

此処何年か紅葉には少し早かった秋の円山観察会でしたが、今年はちょうど見ごろにあたり、秋晴れの中、赤や黄色に色づいた木々を見て回りました。

木の実については、例年通り円山にある6種のブナ科の木を中心に、針葉樹の球果も織り交ぜ観察しました。

(山形 誠一 記)

岩見沢市 利根別自然休養林 '08年10月18日

天候 曇 掲載紙

<秋の植物観察>

参加者のうち2名は、集合場所に通り掛って参加し、途中からさらに遠くへ行くと抜けられた。

秋の紅葉を楽しみながらの観察会を期待していたが、天候不順で傷んだ葉が落ち始めても紅葉は進まず、期待はずれの感じだった。

少ない花や実だが、エゾトリカブトはきれいで、ヤブタバコ、コヤブタバコが並んでいたり、ゲンノショウコやトチバニンジンの実が可愛らしい。



トチバニンジンの実

大正池ぞいでは、ヤブタバコ、ミヤマヤブタバコが乾燥でみんな萎れ、ホソバノツルリンドウは、至る所で開花したまま枯れていた。

花ではないが、ラクヨウキノコがこの時期に見つかり、季節はずれが此処にも、と言う感じであった。

(北本 毅 記)

苦小牧市 ウトナイ湖 '08年10月26日

天候 曇 掲載紙

<白鳥(渡り鳥)の観察と森のお散歩>

前線が通過中のため時々小雨がぱらつき、湖岸では風もありました。

ハクチョウ・ガン・カモなど例年並みに見られ、それらの生活の仕方、渡りのルートや湖との関係などについて理解が深まったと思います。

湖畔のハンノキ・ホザキシモツケやコナラ、果実をつけているマコモ・ツルウメモドキ・チョウセンゴミシについて、更に、キノコの栄養のとり方、土壌形成の仕方、紅葉の仕組み、森林浴の効用などの話、最後にヤマモミジが美しく紅葉している眺めがあり、天候はあまりよくありませんでしたが、満足して帰った様に思います。

(谷口 勇五郎 記)

東区 モエレ沼公園 '08年10月26日

天候 曇後雨 掲載紙

<渡り前集結の鳥たち>

午前中雨・午後曇の天気予報でしたが、ぱらついていた雨から曇り空になって観察会を開始しました。

晩秋のモエレ沼周辺植物と渡り前集結のカモたちを見ました。

オオバン、マガモ、オナガガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ユリカモメなどです。

水辺の鳥12種、山野の鳥10種を確認しました。

エクリプスか交雑種なのか同定が難しい鳥もいて、その事で会話が弾みました。

資料は、観察された2000年以降の鳥の種類を載せました。1999年から始められたモエレ沼公園の鳥の観察会は今年で10年目になりました。

来年も10月第4週の日曜日に観察会を実施します。

(須田 節 記)

小樽市 長橋なえぼ公園 '08年11月1日

天候 晴 掲載紙 読売、赤旗

<冬を迎える生き物達の不思議な生活>

10月25日に下見を実施し、9名が参加。昨年の

観察会ではクマゲラが現れてくれたので、今回もひそかに期待していたが、幸運にも再び姿を見せてくれた。

ブナ科の樹木5種類を比較したり、ツルリンドウのワインレッドの実をめでたりしながら歩いた。



メノコツチハンミョウ

最後はケヤキヒトスジワタムシ(ユキムシ)の顕微鏡観察で締めくくった。

(後藤 言行 記)

北区 北海道大学構内 '08年11月2日

天候 雨後晴 掲載紙

<北大構内~エルムの紅葉を楽しもう>

集合の時間帯は大雨で観察会開催が危ぶまれましたが、11時頃近くには青い空と紅葉が照り映えて絶好の日和になりました。

今年の秋は黄葉がよいと言われておりましたが、点在するイチヨウの黄葉が圧巻でした。

落葉した木々の合間にツル性の植物が目立ち、太陽を求める生命力に参加者の方も見とれていました。

主に観察した植物は、アカナラ、イチヨウ、キササゲ、クロビイタヤ、メグスリノキ、リキダマツ、ルムルブカエデ、ユリノキ、アメリカツタ、カラハナソウ、ツルタデ、ナツツタ、ボタンヅル、ツルウメモドキなどです。



カツラの実

(須田 節 記)

苦小牧市 錦大沼総合公園 '08年11月9日

天候 曇雨 掲載紙 朝日、読売、毎日、苦小牧民報他

<紅葉と沼と木の実>

曇り時々小雨と言う悪条件、しかも寒い1日となった。

そんな中、まだまだ残った色彩雑多な紅葉や樹木の冬芽や草木植生の枯れあとなどを時間をかけて観察した。同じ樹木の紅葉でも、まだ黄色主体のもの、すっかり鮮やかな紅葉となったものなど、個体差の現れたものなどを興味深く観察していた。

午後、錦大沼から白老ガローに移動、支笏火山と苦小牧地方の成り立ち、ガローはどうして造られたかについて一緒に考え、ガロー周辺の観察。

1日ゆっくりと散策し解散した。

(佐々木 昌治 記)

ガローとは、東北地方の方言で「崖の間を川が流れる場所」の意(編集部)

苫小牧市 ウトナイ湖 '09年1月4日

天候 曇 掲載紙

<ウトナイ新春おさんぽ会>

年末の大雪が残るウトナイ湖畔で、新春の観察会を開催しました。

風もなく薄く日が射す湖畔の遊歩道を、氷上のワシ、雪に残る足跡やハンノキの花芽をのんびり観察しながらお散歩。

頭上ではトビ、オジロワシもくるくる舞っています。

参加者はやや少な目でしたが、指導員も一人だったので、ちょうどよい人数でした。

予想外の積雪で予定の林内コースに入れず、小鳥や冬芽があまり観察できなかったことと、予定していたゲームアクティビティがひとつ出来なかったことが、反省点です。

(遠山 あづさ 記)

北区 北大構内・親子 '09年1月10日

天候 雪 掲載紙

<親子で楽しむ雪氷観察会>

10時15分、外気温 - 1.3 積雪量3.3~3.4cm。降り落ちてくる雪の結晶や、これまでの降雪や気候の状態が分かる積雪断面を調べました。雪と地面の境目の温度から、北海道の厳寒で植物がなぜ生きていけるかを考えました。

今回の雪は平均pH5.6位できれいでしたが、雪が汚れる原因と地球に住んでいるみんなが取り組まないと効果がないことを考えました。

樹状結晶を作り、南極の氷を水に浮かべて太古

の音を聞き、氷を瞬時に作ることも経験しました。体験したことや聞いたことを観察会会場で、しっかり記録して冬休みの自由研究を仕上げた小学3年生、そして取材の方が参加してくださり有意義な時間でした。

来年度は1月9日(土)北大構内で実施します。内容の変更と広報の方法を話し合いました。

(須田 節 記)

苫小牧市 北大研究林 '09年1月18日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、市広報

<冬の野鳥と冬芽の観察>

低気圧の間でしたが、気温は0 くらい、風もなく晴れて穏やかな日でした。参加者が例年になく多く、3班に分かれて実施しました。

まず始めに、樹木園の古い門柱にキノコがたくさんついており、キノコの生態系での役割について皆で考えました。

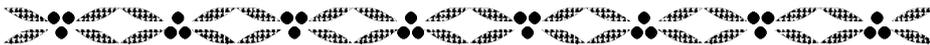
冬は餌付けされているので近くの枝や手元、頭にまで寄ってくるハシブトガラ、ヒガラ、ゴジュウカラなどを観察。

ウメノキゴケなどが樹皮に一杯ついているところで地衣類の生き方を考えました。

ホオノキ、ヤチダモ、キタコブシ、ヤマウルシなどの冬芽の構造や特徴などの観察。

方々にシカの足跡、たまにキツネの足跡が見られ、イヌとの比較など、真冬の動植物のすごし方を観察しました。

(谷口 勇五郎 記)



研修 研修 研修報告

2008年度地方研修会 報告

テーマ： モニタリングサイト1000 里地調査コアサイトから学ぶ
実施日： 2008年6月 1日(日) 10:30 ~ 16:00
場所： 栗山町 ハサンベツ
講師： 栗山町自然観察指導員および栗山町いきものの里づくり推進協議会の方々
協力： いきものの里づくり推進協議会
参加人数： 20名

ハサンベツ地区では、離農によって荒れた里山を、行政と環境保全の団体と地元の住民が一体となって、再生する取り組みを行ってきました。その具体的な内容を、現地を見ながら研修しました。またそこに息づく生きものの生態を観察し、自然再生の過程を学ぶことができました。

(大表 章二)



2008年9月26日、修学旅行で野幌森林公園を訪れた埼玉県所沢高等学校の2年生を、当会の指導員29名でガイドしました。生徒たちから感想が多数寄せられています。そのうちの一部を紹介します。

1組 後藤 芙樹

修学旅行の3日目に自然観察で森林公園の中を歩きました。ガイドの女の人の話を聞きながら2時間ぐらい公園の中を歩きました。ガイドさんの話の中で一番印象的だった話はカツラの木から甘い、いい匂いがするという事でした。歩いていて甘い匂いがしてくると本当にすぐ近くにカツラの木があったりして、何となく癒されました。

公園の中は本当にたくさんのいろいろな植物があって、歩いていてとても気持ちよかったですし、そんなに飽きずに済みました。雨も戻って来るまで降らなかったし、本当に良かったです。また北海道へ行くことがあったら、もう少しゆっくり森林公園の中を散策したいと思いました。

3組 飯村 恵理

3日目の野幌森林公園での自然観察で、北海道の自然についてガイドの方に説明をしていただきたくさんのことを知ることができました。ひつつき虫といわれる草は子孫を残すために動物にくつつくこと、触ったらかぶれてしまう木があること、自然は、種類の数が増えてバランスがとられていることなど、色々なことを教えていただきました。

特に驚いたのは、一部の場所の木が台風などの強い風によって倒れてなくなってしまっていたことです。人の手で整えられた場所かと思ったのでとてもおどろきました。それから、観察の途中でエゾリスをみることができました。野生のリスははじめて見たので、とても感動でした。北海道の自然に実際に触れて、自然のよさや大切さにたくさん気づくことができた自然観察でした。

4組 水上 誠二郎

修学旅行3日目、僕たちは札幌の方へ向かい、森林公園にて自然観察をしました。グループ行動で森の中へ入り、北海道に存在する数々の植物と触れ合いました。

紅葉が進んでいるだろうかと思いましたが森はまだ緑で、もう少しで紅葉かという感じでした。関東に住んでいる僕は初めて出会ううるしの葉、木の幹、森の雰囲気にとっても落ち着きを感じ、班の皆との楽しい会話もありすぐに時間は過ぎていき、その短い時間は大切な思い出になると思いました。

この修学旅行では常に自然が隣にいたと思います。市内行動は少し離れても、移動中も動物を見る事も出来ました。そしてこの自然学習は1番自然に触れ合えた場でした。

6組 坂本 美希

私は森林公園のEコースで自然観察をしました。もともと私は、森とか林が結構好きだったので、とても楽しめました。木や草の名前は、いろいろな種類がありすぎて、私が知らないものばかりでした。季節がら、種がついている草木が多く、形を比べられたりできてよかったです。

中でも、葉のまんなかあたりから2つの種がぶらさがってプロペラみたいにくるくるまわりながら木から落ちてくる、シナの木の種には、感動しました！ また機会があれば、できれば今回とは違う季節に、いけたらいいなと思います^^。

7組 井上 潤哉

自然観察は森林の中を歩いて行きました。北海道のいろんな木や花や鳥の鳴き声を見たり、聞いたりしました。キツツキなどの鳥を見つけることができなかつたのは残念でした。でも、キツツキのつついたと思われる穴を見たときには本当に大自然の中に自分がいることを実感しました。また深い森の中にいたので、気持ちのいい空気をいっぱい吸えました。森を抜ける前の所で台風の影響でなぎ倒された木々を見ました。あんな大木がたくさん折れてるのを見てとても驚きました。自然の恐さも教わった気がしました。

このような素晴らしい所がいつまでも残っていてほしいなあと思いました。そのためにも人間が環境を悪化させている今の状態を早く改善するために一人一人の環境に対する気持ちを持ってほしいとこの自然観察を通して思いました。修学旅行でいい体験ができたのでよかったです。

9組 西久保 李花

酪農大学で、エキノコックス病についての講義を受けました。私は生物の勉強が好きなので楽しかったです。エキノコックス病はキツネなどのフンなどから人間に感染する病気で肝臓が変になってしまうのを知りました。広まるのを防ぐために酪農学園大学のエキノコックスの研究をしている人達はソーセージに薬みたいのをうめこんだりして野生のキツネがいると所にまいて広まるのを防いでいるらしいです。

その話を聞いて私もそんな研究に加わってみたいと思いました。それから、観光地とかで野生の動物とかを見てもむやみに近づいたり、食べ物をおあげたりしちゃいけないと思いました。

【事務局だより】

☆ 救急救命講習会が終わりました。

'09年2月1日(日)9:15～16:45、かでの2.7(940研修室)で実施。

受講者は7名。講師は(財)札幌市防災協会、日本赤十字社北海道支部です。

今後、会員の皆さんがより参加しやすい講習会にしていきたいと思しますので、

ご意見・ご要望

がありましたら

事務局までご一

報下さい。



☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部
山形、広報担当岡田、事務局武田、
HP担当竹林へお願いします。

	収入 (円)	支出 (円)
会場費(かでの2.7)		10,300
指導員派遣費(赤十字)		3,000
駐車代(防災協会)		1,050
資料代(赤十字小冊子50円×9冊)	(450)	(450)
計		14,350

資料代(赤十字小冊子50円×9冊)は受講者負担です。

収支 予算 15,000円 - 支出14,350円= 残高 650円

☆ 札幌市にお住まいの 加藤 アキさんから50,000円の寄付をいただきました。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

☆ 第5回理事会 '09/ 1/27 札幌エルプラザ研修室

・2008年度事業報告・2009年度事業計画案—各部より

・2009年総会・講演会—日時、会場について

・埼玉県所沢高校から報告集を頂きました。

☆ 第6回理事会 '09/ 2/25 環境サポートセンター 多目的ホール

・2009年総会・講演会—講師、準備等について

・2008年度事業報告確認・2009年度事業計画案について

・2008年度会計中間報告

・2009年度会計予算案について

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会
-----> 会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
/Fax 011-581-5439

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察会保険料
-----> 観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5
/Fax 0134-51-5216

観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14
/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 大表 章二 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
0136-57-5610

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 武田 治子 札幌市北区北34条西9丁目1-11グランドパレス103号
事故発生等緊急時は /Fax 011-707-5621 E-mail haru_t@nyc.odn.ne.jp
アスカ・リスクマネジメント 担当:本間氏 011-873-2655

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 北見市端野町3区378-3
HP担当 /Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2009年 3月 15日 / 第90号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発 行 北海道自然観察協議会
編 集 北海道自然観察協議会編集部